



桜を見る会問題の根底にあるもの 浮き彫りになった現政権の腐敗状況

サクラを見る会とは

昨今話題の一つ、「サクラ」の震源地である「桜を見る会」とは、ウィキペディアによると、日本の内閣総理大臣が主催する公的行事である。1952年（昭和27年）から、例年ヤエザクラが見頃となる4月中旬頃に新宿御苑で開催されている。筆者も、1991年だったか、総理府事務官としてこの行事の受付係に駆り出され、招待客の胸に目印の造花をピンでとめるという役割を与えられたことがあった。

私がみた招待客の面々

そのころの桜を見る会では、外国からのお客さんがくると、「外務省の方、お願いしまーす！」と通訳を依頼すべく叫ぶように指示されていた。日本人は私たちが対応する。その年は、地震学の泰斗、和達清夫博士ご夫妻が招待客として、この入口に到着された。その日はかなり気温が高かった。入口は招待客の到着のピークで受付は大混雑だった。暑さの中を正装して徒歩到着された年配の和達博士はその雑踏に飲み込まれかけておられた。「なんだ?! ここは車でこなけりゃ人扱いしないのかッ!」と博士は声を荒げ、かなりご立腹のご様子だった。そこに観光バスが数台到着すると、中から松竹歌劇団の揃いの和装のメンバーがズラリと降り立った。

徒歩到着され、ほこりっぽい中で受付の雑踏を通過された和達博士に比べると、観光バスで大挙到着した松竹歌劇団ご一行様は、受付も団体扱いでも簡単に通過していった。在外公館のお客様は、外交官公用車で現れた。その一人は、外務省の方による駐車場の案内がうまく伝わらないのか、3回も同じところをぐるぐると回っておられた。5月の暑い中を駐車場への道を探すそのかたは、汗びっしょりで「ムツカシイ」と肩をすくめられた。

首相が妙に大勢の後援会員らを招待してる

2014年以降の招待数と支出金額の急増や、招待基準の不透明さについて、立憲民主党、国民民主党、共産党を中心とする野党勢力やその支持層に加え与党自民党内からも批判が出ている。要するに、身内にいい顔するために、この機会を「私的」利用していることが目についてきた。

見方を変えれば、もともと首相主催の桜を見る会と言うイベントがあってここには首相を始めとした政府国会関係者が自分の好きな人たちを招待していいと言う仕組みがあった。ただし、68年も前から続けて来ることができたのは、そ

こで常識的な数でいろんな人を招待していたからだ。これまでは、それほど大規模でもなく、そこそこの招待者が行儀よく招待されてきていたから、何とか収まってきていた。65年ほどは、それでよかった。

記録がみえないのはなぜか？

しかし、なぜか最近になって安倍晋三後援会の人たちが大量に来るようになってきた。で大量に来るっていうのは少しおかしいんじゃないの、会合の前の晩にホテルで宴会やってその費用はどうしてんのかなと言うようなことがさらに話題になっていた。ここで論点がそれたと思う。しかし、桜を見る会そのものに人が来すぎている、あるいは適切でない人が招かれている、と言うようなところをきちんとしておく必要がもっとあったはずだと思う。政府側は招待者名簿をさっさと「適法に」破棄したと口を拭う。でも、明らかにこれは公のお金で自分の後援会のメンバーをたくさんイベントに呼んじゃったという印象があってそこのところは心証まっ黒。金額設定や領収書の出し方、前夜の宴会の設定方法など通常の事務手続すらひた隠し、それを正当化する政治家の言逃れは噴飯ものである。

腐敗政治家の存在がサクラの問題点の本質

公金横領、公職選挙法に違反していることを百も承知なのに、そうでないと口で言えばそれで国民はそれ以上追及しないだろうし、させないぞ、という政治家たちの態度は、不潔、不快である。モリカケではウソをつくにもそれなりの遠慮(公文書の改ざんを担当者に強要したらしい)やかすかな配慮(加計学園事務局長が、メモの内容につき「自分がこのようにあってほしいという希望を述べたもので、具体的事実を述べたものではない」と弁明)を感じるところもあったが、今取りざたされているサクラに関しては、もはや自らの不正を恥じることもなく、あたかもそれが政治家の特権であるかのような言動(名簿は適法に廃棄、宴会の見積書明細書はないなど)を繰り返している。ホテル側の本来的経理事務を踏みにじり不正な経理処理(見積書、領収書の発行や怪しげな現金の授受方法など)を政治の側から強要していることは状況証拠から十分に推測することができる。

2020年2月20日現在「サクラ」問題には、政治家の道徳観、正義感の決定的な劣化と腐敗が根底にあると考える。(ち)

おもな内容

主張 サクラ問題の根底にあるもの……………1
視点 襲いかかる不安……………2

DJIIレポート No.120 20200510

消息/やぶにらみ文献紹介/あしあと/活動……………3
巻末随想 Ogata Project/コロナ除け/湘龍計報……………4

【チヨコの視点】

襲いかかる不安

夢 私はあまり夢を見ない。というよりは、夢は見るものの、目覚めたときにはきれいさっぱり忘れてしまうタチらしい。だが、近頃繰り返し同じシーンで何やら苦労している夢を見ているような、漠然とした記憶が残るようになってきた。多分、これは身体的な疲労感が一晩寝ただけでは回復しなくなっているせいではないかと思う。私の身体的疲労とは、肩とか首に整形外科的な不具合が生じていて、それが眠っている間にも記憶に残るような痛みとか不快感をもたらしているらしい。

疎ましい「所与」条件 さて、我が身の不具合と不快感とはちょっと脇に置くとして、私は最近、夢に出てくるのは違う重苦しい不安とか、絶望を感じることもある。これは、自分の肉体に起因するものではない。自分が置かれている環境とか、社会など、自ら選んだわけではない「所与」条件で、しかもその条件が私という存在にとって必ずしも好ましいものではないという感触に起因していると思う。もっと端的に言うと、日本人として日本に生きることが、私はイヤだと思ふようになってきたのだ。立法も行政も司法も、法治国家としての正義と制度が機能しているとはいえない社会状況で生きていかなければならぬのが、疎ましいのである。

国連の正義と誠意 ご縁あって、2009年からは、UNHCR国連難民高等弁務官事務所でアーカイブ・ボランティアを続けてきた。これは国連の組織のひとつであり、制度及びそこに働く人々の正義と誠意で運営されている。少なくとも、そういう約束の下で運営されている。それは、法治国家、法治組織では当然のことである。日本も法治国家として、現行の法制度が確実に履行されるなら、私が抱く不快感やら絶望感はかなり軽減されると思うのだが、残念ながら日本国はそのような現状にはない。

安倍首相の裏切り 私がこのような不快感、絶望感を明確に感じるようになったのは、安倍首相が閣議決定により憲法解釈を変更したところから始まる。閣議決定による憲法解釈変更は、日本国の法令制度で約束された手続を経ない方法で行われたということになる。正規の手続きを経ずに憲法の解釈を変更するのは、約束違反である。その意味で安倍首相は日本国民の全員を裏切ったのであり、私たち1億2千万の国民はまとめて全員が首相に裏切られたのである。これを見過ごしてしまった私たち国民1億2千万は、なんとおろかなのだろう。見過ごしてしまった国民の一人として、私は自分の愚かしさに我慢ならない。と同時に、国民をまとめて裏切り、だました安倍晋三を許すことはできないと思う。にもかかわらず、今もって安倍は首相として平然と愚かな政治を続けている。なぜなのだろうか。所与の環境である日本国および私以外の国民は、安倍晋三の、このような裏切り行為を許してよいと考えているのだろうか？もし、私以外の国民がそう考えているのだとしたら、私は私以外の人たちとは法令制度及びそれに伴う手続きについて、受け止め方が違っているのだろうか？

私が抱く不安 このように考えるとき、私は不安を抱き始める。ほかの人と自分は感性が異なり、ほかの人が看過してかまわぬと考える解釈改憲の閣議決定という手続きという方法に、とても容認できぬと考える。みんな違ってみんないい、などととても言えない。約束事の解釈は一つでなければ、約束事にはならないはずだ。それとも、この考え方は何か間違っているのだろうか？私はこれを許せないが、ほかの人がこれを許せるのは、どういう理由なのだろうか？堂々巡りのスパイラルの中で、自分を失っていく。これが漠然とした不安になる。以上は、私の個人的なものの考え方をめぐる不安感と、それに起因す

る孤独感、不快感のことだ。そして、この孤立感、絶望感につながっていく。日本という所与の場に身を置いていること、その場が私にとっては不条理に満ちた場であり、到底我慢できそうもないという焦燥感、自分自身を取り戻すためには、こうした矛盾した制度の中から抜け出したいと願いつつ、ではどこに逃げ出したらいいいのかが見当もつかないという、自己矛盾は、私の絶望感をさらに深めていく。

圧迫感・ディープ・ステート もう一つ、これはさらに漠然とした圧迫感と不安感を感じることもある。これは、ディープ・ステートによる日本国殲滅プロジェクトがあるのではないか、という圧迫感と不安感だ。これは3.11後のフクイチの爆発事故直後、東電と原子力ムラの対応を見た時、その後の福島地域の除染作業と除染土が全国各地に運ばれていったことを見て、感じた不安に端を発する。除染土は、聞くところでは我が家のすぐ近くの浄水場の敷地にも運び込まれているらしい。その近所には、小さい子供が遊びに来る公園がある。除染土から放出される放射能で子供たちも、大人たちも、シニアの私たちも、放射能汚染される可能性は高いのではないか。なんで、そんなことするのか？チェルノブイリの場合は住民をまとめて離れた地域に避難させ、その後住民は戻ること許されていない。日本では、帰還を奨励し、かなり高度の放射能汚染地域にも、住民が戻るよう促されているようだ。SNS情報だから、いい加減かもしれないが、それにしても、チェルノブイリとは大違いであることは、間違いあるまい。なぜだろう？

黒幕集団と日本及び日本人 そういえば、広島、長崎の原爆後に、被爆した人々の健康を観察するだけのプロジェクトがあったと聞く。治療でも何でもない、定期的に被爆者の健康状態を観察して、データを積み上げようとしている米国のプロジェクトがあったということは、テレビ番組でも見た記憶がある。そのデータは何に使われているのだろうか？そして、今フクイチで汚染された福島(だけじゃなさそう)の各地の人々は、無理やり帰還を推奨され、せつかく逃れた放射能汚染に再びさらされようとしている。それ以外にも、昨今水道民営化、とか種苗法による農作物の遺伝制御とか、発がん性の強い除草剤の販売とか、どうやら不必要であつたらしい子宮頸がんワクチン投与とか、日本に住む人々の遺伝的な不具合につながりそうな様々な法制度が目につく。こういうことを次々に制度化して、日本人、日本国民を対象に、薬物や化学物質の人体への影響の有無を見ようとしているのではないだろうか？そう考えると、日本人、日本国民は、全体として人間という実験動物と位置付けられ、次々と実験台として消耗させられていくのではないだろうか？これが、私が抱く国民的不安感である。そして、このような日本人実験動物化プロジェクトのようなものがあるとすれば、もちろん表立ってはそんなものは出てこないとは思いますが、いわゆるディープステートという米国に巣くう黒幕集団がそんなことを企画しているのではないかと、さらに不安感も広がる。しかも相手ははっきり見えない。こちらの思い違いだ他人からは一笑に付されるかもしれないと、さらに不安感も拡大する。

襲いかかる不安 これは個人で不安があっても簡単にはその存在を把握することすらかなわない黒幕集団に対する不安感である。このディープステートのプロジェクトからは到底逃げられないと思うと、さらに絶望感が募る。見えない黒幕や不安感の元凶がこの世界でうようよしているのかもしれない。悲しい。

(小川千代子)

◇◆◇アーキビストの消息(順不同)◇◆◇【凡例:●個人■機関】

●岡本詩子氏 4月1日国立公文書館公文書専門官
計報

吉本 富男氏 元全史料協会会長,元埼玉県立文書館
長 2019年6月日 享年93。(全史料協『記録と資
料』No.30 高野修氏追悼文)

櫻井 史郎氏 元記録管理学会事務局長 2019年
11月28日逝去,享年77。(文子夫人寒中見舞)

Toshiko Rogers氏 2020年2月14日12:45am 米国
カリフォルニアで逝去,享年85。小川千代子の叔母。
(千代子従妹、クリスティーナの同日 SNS メッセージ)

志賀 勝氏(しが・まさる、本名=亀山勝彦=かめやま・
かつひこ、俳優)4月3日、拡張型心筋症のため死去、
78歳。告別式は7日午前10時から京都市右京区西
院東貝川町46の3、セレマあんしん祭典天神川ホー
ルで。喪主は長男、亀山大氏。脇役俳優集団「ピラニ
ア軍団」を結成。こわもての風貌を生かし、やくざ映
画や時代劇で活躍した。主な出演作に「仁義なき戦
い」シリーズ、「俺達に墓はない」など。歌手としても活
動した。[共同]なお、私家版『悪役 志賀勝自伝』は
2012年発行、国際資料研究所制作協力。合掌。

☆本コーナーへの皆様のご協力に心からお礼申し上げます。(ち)

●やぶにらみ文献紹介●◆▼●◆●●図書◆論文▼逐次刊行物■その他●◆▼●◆

●ペスト大流行 村上陽一郎 岩波新書 1983年刊
定価470円、古書店で入手、初版初刷。その後岩
波書店に注文したら初版20刷定価780円+税、
内容は不変。今、コロナ禍で売れているらしい。

13世紀以来欧州を繰り返し襲ったペスト禍の元
での人々の行動は、今と酷似していることに驚い
た。(ち)

●千代子のあしあと●◆▼●◆●●図書◆論文▼逐次刊行物■その他●◆▼●◆

▼DJIレポートNo.120 20200330 2020年5月30
日 up, 4p. PDF 国際資料研究所 www.djichiyoko.com

▼研究プロジェクト「記録管理学体系化に関する
研究(その3)ー記録管理学体系化の方向性探索
とその成果ー」『レコード・マネジメント』No.78、

2020.3 記録管理学会 p54-65

■記録管理学会研究プロジェクト助成研究『記録
管理学体系化に関する研究報告書その2、その3』
非売品、20200120 発行、20200425 記録管理学
会 NL 同梱配布

DJI国際資料研究所の主な活動 2019年12月21日~2020年5月10日

凡例:3月1日ー公文書とは コロナで延期・中止を示す
<出講>

1月7,14,21,28日 2月4日 東京学芸大学
博物館資料保存論 東京・小金井市

<講演>

3月1日ー公文書とは?モリカケ、サクラと公文
書管理法ー越谷ともろウカフェ、越谷男女共同参
画センター、埼玉県延期

<執筆・編集>

1月19日 記録管理学会『レコード・マネジメ
ント』誌へ「記録管理学体系化プロジェクト報
告」原稿再提出 4月20日刊行のレコマネ誌に
掲載された。

1月20日 記録管理学会研究プロジェクト助成
研究『記録管理学体系化に関する研究報告書その
2、その3』入稿、4月25日完成配布

<見学>

3月18日ー富子さんと目白のキャンパス散策

3月31日ー東京都公文書館新館開館式ー

<参加>

1月6日 HC Ogata Project 打合せ 上智大学
1月11日 千種台同期新年会 明治ライアス社
名古屋

2月4日 UNHCRのモンセラート、ヘザーと電

話会議

2月14日 全史料協役員会 寒川文書館、神奈
川県

3月4日ーギフトさん博論合格お祝いふぐの会
新宿

3月11日ー寒川文書館運営審議会ー寒川文書館

3月17日 松本市文書館運営協議会 松本市文
書館

<お稽古ごと>

2月10,17,24日 3月2,16,23,30日 4月
6,13,20,27日、5月4,10日 LINEでルーマ
ニア語を学ぶ ラウラ先生 Unde este telefonul?

<その他>

1月15日 洋子さんら3人とお茶会 藤沢自宅

2月4日 HC Ogata Project 関連で UNHCR モ
ンセラート、ヘザーとスカイプ会議

2月5-9日 米国西海岸入院中の叔母お見舞い

2月22日3月21日 町内会役員会、東海岸市民
の家、藤沢

2月27日 フミオくんと一献 札幌

2月28日 雛の会、札幌&マチコ先生とサンモ、江別

3月6-10日ー米国西海岸で逝去した叔母の墓参

3月10日 ひとみさんとランチ 銀座松屋

3月14日、4月9日 縁側でお茶の会、自宅

3月18日 モトコさんと赤座うむどんランチ
4月30日 ジュネーブ UNHCR のメンバーと日本のボランティアメンバー10人で zoom 挨拶
5月4日 東大情報学館 2008 年度メンバーで 6

名で zoom オンライン飲み会
5月10日 恵子先生とオンラインお茶
5月22-23日 記録管理学会研究大会

■巻末随想

コロナ禍下の海外アーカイブ・ボランティア事業

2019 年暮、メールが飛び込んできた。10月に逝去された緒方貞子さんの資料整理に関する問い合わせだった。それに先立ち、ジュネーブからは、もしかして緒方貞子さんの資料整理を優先することになるかもしれない、やる気ありますか、というメールが来ていた。これは、日本のアーキビストの取っては魅力あるお話なので、かなり大きく気持ちが動いた。ボランティアのメンバーは、これに全面協力したいと考えたのは言うまでもない。

問題は活動資金の調達だった、その時点では…。問合せ元も、関係先も、もちろん我々も、今年は緒方さんの資料整理になりそうだと思っていた。だが、コロナは私たちが描いた緒方プロジェクトの実施に向けたプランに対して、1 月末ごろからじりじりと可能性を狭め始めた。問合せ元の担当者からは、2 月末に予定していた UNHCR と打合せのための海外渡航を取りやめなければならぬことになったという連絡があり、年末年始にはバラ色に見えた緒方プロジェクトは頓挫した。そして、3 月にはスイスでもイタリアでもフランスでも、コロナ禍の蔓延が激化の様相を見せるようになる。UNHCR でも皆さん WFH(在宅勤務)となり、アーカイブの職員といえども、書庫はおろか、UNHCR の建物に入ることすら禁じられてしまったという話が聞こえてきた。

4 月は日本でも感染拡大阻止のため、国民的な行動変容と自粛が厳しく求められることになった。その結果、会議や情報交換のためのコミュニケーションはオンラインのやり取りに頼るばかりとなった。よくしたもので、こうなるとオンラインの技術は磨きがかかり、だれもがオンラインで仲間とのやり取りを簡単にできるようになってきた。

我々もそうだった。4月30日、zoom で UNHCR のアーカイブの仲間と日本のボランティア仲間は、短い時間ながら顔をそろえ、挨拶をする機会を持つことができた。その意味で、ボランティアのプログラムはなお継続できそうだと感じた。しかし、緒方プロジェクトに関しての進展は、5 月中旬現在、暗中模索のようだ。緒方プロジェクトが幻に終わることなく、ルール通り 2021 年ごろには公開できるように資料整理の作業が進められるといいと願うばかりだ。さしあたり、今年 2020 年は、例年実施しているアーカイブ・ボランティア事業の実施は見合わ

せ、来年度以降に事業再開を目指すつもりだ。

コロナ除けおまじない

私が考案したコロナ除けのおまじないを下に記します。試してみてください。声に出して笑うきっかけを作るためのおまじないですから、わざとらしくても、笑ってみてください。

まず、窓やドアを大きく開け放します。次に外に出るか、外気に身を晒すところに立ち、お天道様の方を向き、顔を上げて、

「コロナ来るな コロナ来るな」と 10 回唱えます。できたら、おまじないを唱える間はバンザイしてください。こうする間に、自分の行動が滑稽にかんじられたら、出来るだけ声に出して笑ってください。以上がすんだら、窓やドアは閉めましょう。

・考えられる効能は

室内の換気/気分転換/笑いによる免疫力向
どうぞくれぐれもお健やかに過ごして下さい。

湘龍の訃報

湘龍は、ウチの猫、推定 9 歳だ。4 月 27 日に庭先で休んでいる姿を見かけたのが最後となった。2017 年に死んだ黒猫、ヤマトの兄弟でサバ柄、長男面で、生まれたころに有名だった横綱の朝青龍みたいに強かったのと、湘南の猫だから湘龍と呼んだ。5 匹の兄弟の中でも最も食欲旺盛で、ボスらしい面構えの男の子。今年 4 月に入り体調を崩し、みるみる体重を減らした。それでも、朝どれシラスとか、カツオのたたきとかをおいしそうに食べていた。だが、26 日、27 日と歩くのも大変そうになって、初めて人に撫でられるのを許し、アゴの下や耳の後ろをよよしさせてくれた。で、しばらくするとおなかを見せた。庭に敷いてやったバスタオルの上で休んでいたが、4 月 27 日午後、私が散歩から帰ってみたら、姿を消していた。近所の八大竜王の祠にお参りして回復を願掛けておいたから今は竜王様と仲良くしているのだろう。



猫語のわかる本によると、大人の雄猫がおなかを見せるときは、「もうやめて」というサインなのだそう。もう、ナデナデはたくさんだ。ほっといてくれ、そう言っていたのだろう。湘龍、わかってやれずにナデナデしてしまって、ごめんなさい。誇り高き湘龍との 9 年間、ありがとう。合掌 (ち)